

区分	循環動態に係る薬剤投与関連
担当指導者	熊田 芳文
時間	12
学習概要	<p>「循環動態に係る薬剤投与関連」で共通して学ぶべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環動態に関する局所解剖 2. 循環動態に関する主要症候 3. 循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患の病態生理 4. 循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメント 5. 輸液療法の目的と種類 6. 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌 7. 輸液時に必要な検査 8. 輸液療法の計画 <p>特定行為「持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整」で学ぶべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖質輸液、電解質輸液の種類と臨床薬理 2. 各種糖質輸液、電解質輸液の適応と使用方法 3. 各種糖質輸液、電解質輸液の副作用 4. 病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む） 5. 持続点滴中の糖質輸液、電解質輸液の投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等）
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①循環動態に係る薬剤投与関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける ②医師の指示の下、手順書により、身体所見等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる ③手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う
研修方法/ 評価方法	<p>講義（放送授業）：e-ラーニングの受講/確認テスト、添削指導</p> <p>演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション、レポート提出/観察評価</p> <p>実習（面接授業）：①手順書、②患者に対する実技</p> <ol style="list-style-type: none"> ①手順書案の作成、特定行為実施後の再評価/医師による評価 ②特定行為の適応・病状の範囲・行為内容の判断・実施・報告、レポート提出/評価表（DOPS）を用いた観察評価、レポートへのフィードバック <p>※経験すべき症例数は、行為の難度に応じて5症例とする</p> <p>試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（各自のPC端末で定められた時間内に実施する）</p>
備考	<p>研修時間には、講義、演習、評価を含みます</p> <p>講義時間には、動画再生時間、動画中の課題の時間、確認テスト（テスト受講、採点、解答確認）の時間を含みます。自学の時間は含まれません</p> <p>患者に対する実技を行う実習の前にシミュレーションによる学習（演習：ペーパーシミュレーション）を行います</p>

学習内容	テーマコード	タイトル	講義	演習	実習	評価	合計	学習概要
「循環動態に係る薬剤投与関連」で共通して学ぶべき事項								
講義	TK2SL010	循環動態に関する局所解剖と生理	0.75				6	1
	TK2SL020	循環動態に関する主要症候	0.5					2
	TK2SL030	循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患の病態生理	1					3
	TK2SL040	循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメントと検査	1					4
	TK2SL050	輸液療法の目的と種類	0.5					5
	TK2SL060	病態に応じた輸液療法の適応と禁忌	1					6
	TK2SL070	輸液時に必要な検査	0.5					7
	TK2SL080	輸液療法の計画	0.75					8
演習	TK2SE010	循環動態が不安定な患者のアセスメントと薬物療法の計画		1			1	4,8
試験	TK2ST010	循環動態に係る薬剤投与関連（共通） 修了試験				1	1	
			6	1	0	1	8	

特定行為「持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整」で学ぶべき事項								
講義	TK2SL610	糖質輸液、電解質輸液の種類と臨床薬理、適応と使用方法	1				2.5	1, 2
	TK2SL620	病態に応じた電解質輸液の調整（水分・電解質補給）	1					4
	TK2SL630	病態に応じた糖質輸液の調整および輸液の副作用と調整のリスク	0.5					3~5
演習	TK2SE610	病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準		1			1	4
実習	TK2SP610	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整（手順書の作成）			†		0	1~5
	TK2SP620	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整（患者に対する実技）			5症例	‡		1~5
	TK2SP630	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整（手順書の見直し）			†			1~5
試験	TK2ST610	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整 修了試験				0.5	0.5	
†：臨床経験や施設に応じて手順書案の作成、見直しを行う			2.5	1	0	0.5	4	
‡：患者に対する実技では、1症例ごとに10~15分程度の観察評価を行う								